

指標	指標ほか		単位		R2	R3	R4	R5	R6	
	成果指標	来場者数	人	目標						
				実績	14,480	22,415	33,488	27,995		
	活動指標	公演回数	回	目標						
				実績	90	104	131	101		
				目標						
				実績						
	単位あたり 事業費	受益者数(a)		人						
		受益者あたり事業費(=C/a)		円						

(4-1)事業の評価

事業の評価	事業の方向性	維持(改善)	事業のボリュームは現状規模で維持するものの、手法の改善をするもの				
	事業の達成状況と課題	令和5年度については、前年度までの市からの補助金や国の事業を採択するなどし、過去最高の経常利益となった。今後も安定した経営を行うために、企業等からの賛助会費や収益事業の採択などに取り組む必要がある。	今後の実施内容・今後の改善内容	例年と同様の賛助会費を支援する予定。なお、楽団は令和5年度まで日本オーケストラ連盟準会員であったが、令和6年度からは規定の公演数などを達成することで正会員となる見通し。			
	改善の有無	無		千円	節	細節	細々節
これまでの改善内容			事務事業額評価				

(4-2)事業継続の可能性(事業のスクラップ可能性)

評価項目		評価結果	評価結果を判断した理由
事業分析	妥当性	行政が公費を投入して実施することが妥当か(対象を見直すことはできないか)	妥当である 文化・芸術に触れるために必要な事業である。
	有効性	廃止・休止した場合に住民が影響を受けるか	多くの住民に影響がある プロの音楽に触れる機会の減少につながる。
	効率性	サービスを低下させずに総事業費を削減できないか	現状のままでよい 本市の文化資産である楽団の運営支援に必要な経費である。
		外部への委託や類似事業との統合により事業費の削減の余地はないか	現状のままでよい 楽団と同内容の活動を行う団体が市内に存在しないため
	公平性	受益者負担は適正か	適正である 本市の文化資産である楽団の運営支援のため、300万円の賛助会員費は妥当である。